

世界作業療法士連盟 人権の声明書 Position Statement on Human Rights 2006

はじめに

WFOTは国連の世界人権宣言を完全に支持する。この声明書の目的は人の作業と参加に関する人権についてのWFOTのポジションを示すものである。

原則：

- 人は、自分の文化と信念に沿ったやり方で、自分の潜在力を十分に実らせ、満足を経験するような、ある範囲内の作業に参加する権利をもつ。
- 人は、作業に参加するためのサポートを得る権利をもつ。それは、作業との結び付きを通してなされ、家族、地域、社会の一員として含まれることであり、価値をもつことである。
- 人は、自分自身のために選択する権利をもつ。抑圧、権力、強制、つまり安全に、生き延びることや健康を脅かす作業（こうした作業は、人間性を奪ったり、価値を低めたり、不法である）に参加することから自由になる。
- 作業のための権利は、市民活動、教育的、生産的、社会的、創造的、スピリチュアル的（たましいに深くかかわるような）、回復（治療）的作業を含む。作業の人権の表明は、異なる場所では違った形態で行われる。なぜならば、作業は文化的、社会的、地理的状況によって形成されるからである。
- 社会レベルでは、作業の人権は、社会において価値があり意味がある作業に各人が多様な貢献をするということに価値を置くことが土台となる。そして、違いがあるにもかかわらず、作業への参加へのアクセスが平等であることを確実にする。
- 作業権の侵害は、経済的、社会的、物理的排除の形態をとるかもしれない。態度や物理的バリアを通して、あるいは作業を行う上で必要な知識、技能、資源、場所にアクセスすることの制限を通してなされるかもしれない。
- 作業権を脅かす世界的状況には、貧困、病気、社会的差別、避難、天災や人災、軍の闘争が含まれる。さらに、作業権は、文化的、習慣の問題であり、地域環境や組織内の権力や日常実践の問題である。

行動ストラテジー：

作業療法士は作業参加を制限やバリアを経験する人をサポートする知識と技能をもっている。作業療法士は参加をサポートしたり、作業のバリアと不公正という問題への意識を高めたり、すべての人のための作業参加を拡大するために集団や地域や社会と一緒に取り組んだりするための知識を発展させ組織化する役割と責任もある。これを達成することは、作業的に丁度よい社会に到達することである。

作業療法士と作業療法協会にとってのチャレンジは次の通りである。

- 作業的不公正を特定し強調し、個人が経験する不公正の影響を狭める専門職としての責任を受け入れる。
- 社会における作業と参加の広範な視点を、権利として認めるようみんなの意識を啓発する。
- 意味のある作業を通しての参加を促進するために、個人、組織、地域、社会と一緒に協働して取り組むことを学ぶ。
- ユニバーサルデザインを教え発展させ、それによりみんなが真にアクセスできる社会を推進する。
- 責任をもって文化的感受性の問題を強調し、文化的能力を育成する

注：作業の定義

作業療法において、作業は人々が個人として行う日常生活の活動を指し、これは家族の中や地域と共に行われ、時間を占有し、意味と目的を人生に持ち込む。作業は、人々がする必要があり、したいと思い、することを期待されていることを含む。